

# 広島県感染症発生動向月報

[ 広島県感染症予防研究調査会 ]  
( 平成 31 年 3 月解析分 )

## 1 今月のトピックス ～ 海外で注意すべき感染症について ～

ゴールデンウィークには海外へ渡航される方が多くなります。海外滞在中に感染症にかかることなく、安全で快適に旅行し、帰国することができるように、海外で注意すべき感染症及びその予防方法をお知らせします。

### (1) 海外で注意すべき感染症

主な感染源	主な感染症	主な発生地域	主な症状	予防接種	予防方法
食べ物 水	E型肝炎	世界各地	発熱、倦怠感、黄疸		十分火の通った食べ物を食べる 生水は飲まないようにする
	A型肝炎	世界各地	発熱、倦怠感、黄疸	○	
	赤痢	世界各地 (特に、水道設備の未整備地域)	発熱、下痢、腹痛		
	腸チフス		持続する高熱、下痢、倦怠感		
	コレラ		大量の水様便、嘔吐、脱水症状		
蚊	マラリア	熱帯、亜熱帯地域	周期的高熱、悪寒、冷汗、頭痛等	予防薬	虫除けローションの使用 長袖・長ズボンの着用
	デング熱		高熱、筋肉・関節痛、発疹、目の痛み		
	チクングニア熱	東南アジア、南アジア、アフリカ	高熱、頭痛、筋肉・関節痛、 倦怠感、発疹、関節腫脹		
	ジカウイルス 感染症	アフリカ、東南アジア、南アジア カリブ海諸国他	発熱、発疹、結膜炎、筋肉・関節痛 倦怠感、頭痛		
	黄熱	アフリカ、中南米	高熱、頭痛、筋肉痛、悪寒、嘔吐	○	
	ウエストナイル熱	北アメリカ、アフリカ、ヨーロッパ南部 中東、アジア	発熱、頭痛、筋肉痛、倦怠感		
	日本脳炎	アジア	高熱、昏睡、意識障害、頭痛	○	
動物	狂犬病	世界各地	発熱、治癒した受傷部の痛み、 知覚過敏、怖水・怖風症状	○	みやみに動物に触らない 犬等の咬傷を受傷後の予防注射
	鳥インフルエンザ	アジア、アフリカ	発熱、呼吸器症状		鳥類との接触を避ける 手洗い、うがいの励行
	MERS	中東		ヒトコブラクダとの接触を避ける	
人	麻疹	世界各地	高熱、咳、鼻水、結膜充血、発疹	○	手洗いの実施
	風しん		発熱、発疹、リンパ節腫脹	○	
	ポリオ	中東・アフリカ等	発熱、麻痺	○	
沼、湖 河川	レプトスピラ	世界各地	発熱、悪寒、頭痛、筋肉痛 腹痛、結膜充血		淡水での水浴びを控える
	住血吸虫症	アジア、アフリカ、中南米	下痢、血尿、肝臓・脾臓の腫れ		

### (2) 渡航前に・・・

○出発前に渡航先の流行状況等に関する情報を入手しておくことは非常に大切です。

詳しい情報は、次のホームページなどを御覧ください。

- [海外へ渡航される皆様へ（厚生労働省検疫所）](#)
- [海外安全ホームページ（外務省）](#)

○これまで受けた予防接種について確認しましょう。

国内の感染症を海外に持ち出さない、又は海外の感染症を国内に持ち込まないために、国内で予防接種が推奨される疾患であって予防対策が不十分なものがあれば、予防接種を検討しましょう。

- [予防接種実施機関の探し方（厚生労働省検疫所）](#)

#### <お知らせ>



**麻疹（はしか）は  
ワクチン接種が予防に有効です！**

麻疹は、麻疹ウイルスが感染しておこる感染症で、発熱や発疹などが主な症状です。麻疹は感染力が強く、空気感染もするので、日頃から麻疹のワクチン（一般的にはMRワクチン）を受けていることが、予防に最も有効です。

**定期接種を受けましょう！**

《定期接種を受けましょう》

- ◎ ワクチンを1回接種することで、95%以上の人が麻疹に対する免疫がつくと言われています。
- ◎ 確実な免疫を得るためには、99%以上の人が免疫がつくと言われる2回の接種がのぞましいとされています。
- ◎ 接種歴は、母子健康手帳で確認できます。

《ワクチンを接種した方がいい？》

- 1歳児と小学校入学前1年間の幼児は、定期接種の対象です。期間内に接種することを積極的にお勧めします。
- 過去に麻疹と診断され、検査で確認されたことがある方は、免疫がついていると考えられることから、ワクチンを接種する必要はありません。
- 過去に麻疹と診断されたこともワクチン接種を受けたこともない方は、母子健康手帳を確認の上、医療機関にご相談ください。

《以下、特にご注意ください》

- 過去に麻疹と診断されたこともワクチン接種を受けたこともない方で、麻疹患者と接触し、1～2週間（約10日間）経ってから発熱、せき、のどの痛み、眼が赤くなるなどの症状が出てきたら、麻疹の可能性がります。麻疹の可能性がある旨、事前に医療機関へ連絡してから受診するようにしてください。

## 2 疾患別定点情報 【速報値】

### (1) 定点把握(週報)五類感染症

平成31年2月分(平成31年2月4日～平成31年3月3日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	6,458	14.10	22.50	↓	10	ヘルパンギーナ	1	0.00	0.02	
2	RSウイルス感染症	158	0.55	0.39	↗	11	流行性耳下腺炎	54	0.19	0.35	↗
3	咽頭結膜熱	110	0.38	0.53	→	12	急性出血性結膜炎	1	0.01	0.01	
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	627	2.18	2.31	↗	13	流行性角結膜炎	37	0.49	0.56	↘
5	感染性胃腸炎	2,238	7.80	7.60	→	14	細菌性髄膜炎	1	0.01	0.00	
6	水痘	69	0.24	0.41	↘	15	無菌性髄膜炎	3	0.04	0.01	
7	手足口病	37	0.13	0.15	↗	16	マイコプラズマ肺炎	7	0.08	0.15	↘
8	伝染性紅斑	91	0.32	0.21	↗	17	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	
9	突発性発しん	70	0.24	0.36	→	18	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	12	0.14	0.43	↑

### (2) 定点把握(月報)五類感染症

平成31年2月分(2月1日～2月28日)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	50	2.17	2.32	→	23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	63	3.00	3.88	→
20	性器ヘルペスウイルス感染症	27	1.17	0.72	↘	24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	5	0.24	0.40	
21	尖圭コンジローマ	14	0.61	0.74	→	25	薬剤耐性緑膿菌感染症	3	0.14	0.02	
22	淋菌感染症	11	0.48	0.94	↓						

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり)

※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

#### 発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

#### 急増減疾患!! (定点当たり前月比2倍以上増減)

- 急増疾患 感染性胃腸炎(ロタウイルス) (0.06 → 0.14)
- 急減疾患 インフルエンザ (30.60 → 14.10)
- 急減疾患 淋菌感染症 (1.13 → 0.48)

定点把握対象の五類感染症(週報対象18疾患, 月報対象7疾患)について, 県内178の定点医療機関からの報告を集計し, 作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～11	12, 13	19～22	14～18, 23～25	
定点数	43	72	19	23	21	178

## 3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

【速報値】

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	42	結核(42)〔西部保健所(7), 西部東保健所(1), 東部保健所(7), 北部保健所(3), 広島市保健所(20), 呉市保健所(2), 福山市保健所(2)〕
三類	1	腸管出血性大腸菌感染症(1)〔西部東保健所(1)〕
四類	4	A型肝炎(1)〔広島市保健所(1)〕, レジオネラ症(3)〔西部保健所(1), 東部保健所(1), 広島市保健所(1)〕
五類	56	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(2)〔西部保健所(1), 東部保健所(1)〕, 急性脳炎(2)〔呉市保健所(1), 福山市保健所(1)〕, 劇症型溶血性レンサ球菌感染症(1)〔呉市保健所(1)〕, 後天性免疫不全症候群(1)〔広島市保健所(1)〕, 侵襲性肺炎球菌感染症(6)〔西部保健所(1), 広島市保健所(4), 呉市保健所(1)〕, 梅毒(13)〔西部保健所(1), 東部保健所(2), 広島市保健所(3), 福山市保健所(7)〕, 百日咳(19)〔西部保健所(1), 西部東保健所(4), 東部保健所(2), 北部保健所(1), 広島市保健所(5), 呉市保健所(2), 福山市保健所(4)〕, 風しん(11)〔西部保健所(2), 東部保健所(6), 広島市保健所(3)〕, 麻しん(1)〔福山市保健所(1)〕